Teaching Portfolio 2021

第 5 回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ
2021 年 3 月 8 日（月）～　10 日（水）

佐賀大学　所属: 教育学部
氏名　成松　美枝
mienari@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任 1
2. 教育の理念 2
2.1. 理念１ 2
2.2. 理念２ 2
3. 教育の方法 3
3.1. 方法１ 4
3.2. 方法２ 4
3.3. 方法３ 5
3.4. 方法４ 5
4. 教育の成果・評価 5
5. 今後の目標 7
5.1. 短期目標 7
5.2. 長期目標 8
6. 添付資料・参考資料 8

1. 教育の責任

私の本学(佐賀大学)における所属先は、教育学部幼小連携教育コース　幼小発達教育専攻である。幼小連携教育コースの教員としては、コースの学生たちに対して幼稚園と小学校の接続に関する基礎知識と特別支援教育の基本的理念を修得させ、学生たちが幼稚園、小学校、中学校の教育職員免許を取得するのを支援し教育することが私の役割となる。特に幼小発達教育専攻においては、子どもの発達を心理学・教育学・保育・幼児教育学・教育学の視点から包括的に理解する力を育てることも私の責務である。

一方、私は自分が所属する教育学部幼小連携教育コースの学生以外にも、教育学部の小中連携教育コースの学生と、理工学部、芸術学部、経済学部で中学校と高等学校の教員免許状の取得を目指す学生を対象にした教職課程科目の授業も担当している。これらの授業については、学生たちに「教員として必要な幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養できるよう適切に配慮しなければならない」という担当教員の役割が、教育職員免許法施行規則に規定されている。佐賀大学で教員免許状を取得する学生が教員として正しく豊かな人生を歩めるよう、私自身も教員として修養と研究に励みながら学生の指導に尽力したい。

以下に、2020 年度に本学で担当した科目を列挙するが、内容については各科目のシラバスに提示している。

- 2020 年度に一人で担当している教育学部学生対象の科目

科目名	対象学年	種目・特徴・期間	受講者数
教育史	2 年次	選択・専門・半期	90
教育方法論	2 年次	必修・専門・半期	65
現代の教育と社会	1 年次	必修・専門・半期	128
教職概論	1 年次	必修・専門・半期	125
幼小連携教育演習	3 年次	必修・専門・半期	4
卒業研究	4 年次	必修・専門・半期	4

- 2020 年度に一人で担当している教育学部以外の学生対象の科目

科目名	対象学年	種別・特徴・期間	受講者数
教育方法学	2～4 年次	選択・教職・半期	130
教育原理	2 年次	選択・教職・半期	95
教育史	2 年次	選択・教職・半期	90

- 2020 年度に複数の教員で担当した教育学部の担当科目

科目名	対象学年	種目・特徴・期間	受講者数
幼小連携教育論	2 年次	必修・専門・半期	27
幼小連携教育研究法	3 年次	必修・専門・半期	27

また、2020 年度はチューター担任として 14 名の学生を担任し、オンラインではあるが開講前の面談を必ず実施するようにしている。その他、2020 年度の着任後に FD 委員会にも所属して委員を務めた。

2. 教育の理念

2.1 信頼され、自ら考えて行動できる教員・社会人の育成

佐賀大学の教育目標では、「国際的視野を有し，豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成すること」が挙げられている。教育学部でも、「現代社会の変化に伴う様々な教育課題に応えることができる学校教員養成を目的とする」ことが教育目標となっている。そのような本学や学部の理念・目標を踏まえ、私自身の本学での教育活動では、教員になるために必要な知識・技術を習得するだけでなく、実際の教育現場や職業・社会生活において様々な困難な課題に直面した時粘り強く解決に取り組むことで、「**①信頼され、自ら考えて行動できる教員・社会人の育成**」を私の教育の理念としたいと思う。

「信頼される教員・社会人」とは何かといえば、専門職である教員としての知識・技術を確実に身に着け、「自分で考えて行動できる人間」ということであろう。すべての学生が、私の教職課程科目の授業を通して教員として必要な知識・技術を習得し、児童生徒や親、社会の人々から信頼され、求められた自分の役割と責務を自ら考えて行動できる教員・社会人になることを第一の目的としたい。

2.2 すべての利用者(生徒)に対して平等・公正に対応する教員・社会人を育成

一方で、私の所属する教育学部の卒業生は 8 割近くが教員として幼稚園、小学校・中学校、高校の教育現場で児童・生徒の教育活動にあたる。教育基本法第 6 条にも定めるように、学校は「公の性質」を有し、そこに務める学校の教員は「全体の奉仕者」としてすべての児童生徒・保護者に対して「平等かつ公正な態度で教育活動にあたる」必要がある。私自身の研究テーマは、「アメリカの教育における平等」である。米国では幼児期の教育が人生の成功を左右するとしてすべての子どもに良質の教育を与えることが重視されてきた。研究を通して、日本の教育現場でも教育環境に左右されずすべての子どもが自分の能力(知・徳・体)を最大限に伸ばせる教育機会を与えることが重要であると考えた。そこで、私の教育の第 2 の理念として、「**②すべての利用者(児童生徒)に対して平等・公正な態度で接する教員・社会人を育成する」こと**を目的としたいと思う。

平等・公正な態度とは、すべての子どもの能力(知力・道徳性・体力)を最大限に伸ばすために教員が行う適切な指導・支援のことである。そこで、上記 2 点の教育理念を達成するために、学生、自分自身に対して次の様なことを求めたい。

学生に求めること:

・「信頼される教員・社会人」になるためには、まずは教員・職業人としての「知識と技能」を確実に身に着け、道徳性を備えた人間になることが求められる。

・また、「自ら考えて行動できる力」というのは、短期間で身につくものではない。日ごろの授業や演習、実習から自ら積極的に教育や社会の問題点や解決策を考え、積極的に行動する人間に育っていってほしい。

・どんな人とも積極的にコミュニケーションを取り、一定の人間関係に収まらず多くの学生や教員、社会の人々と関わり、公正かつ平等な態度で行動してほしい。

・教育実習やボランティア活動で児童生徒に接する時には、特定の子どもだけに声をかけたり親切にするのではなく、すべての子どもに対して平等に気を配り声をかけて、より良い教師と生徒の関係を築いてほしい。

自分に求めること

・私自身が教育制度・政策、行政の分野において、現在日本が抱える問題に対して何らかの解決策を提案するような論文や書籍をコンスタントに公表できるように努力する。

・どんな学生に対しても公正かつ平等な態度で接し、指導においても学生間で不公平感を与えないようにする。その為に授業科目では、評価基準を明示し、学生が得点の根拠を理解できるようにする。

・学生に対して必ず授業内のリアクションペーパー等で意見・感想を求め、次の授業でフィードバックして応える様にする。

・学生に対しては全員を～さんで呼び、敬語で社会人として接し、友達感覚にならない様にする。

3. 教育の方法

私の担当する授業は主に、(1)講義 (2)演習科目、(3)卒業論文の為の研究指導の形態をとる。これらの授業形態については、教育方法は異なるものの、学生さんに対して、①教科の基礎・基本となる科目の内容を私・教員が伝え(インプット)、②学生自身で考えさせて、文字あるいは映像で自分自身の考え・意見を表現させる(アウトプット) の両方を求める授業を展開する点で相違はない。

私の教育理念である「①信頼され、自ら考え行動できる教員、社会人の育成」のために、そして「②すべての子どもに公正・平等に対応できる教員の育成」のために、自分の(1)～(3)の授業形態でどのような教育の方法を取るのかを述べていきたい。

3.1　講義科目での方法:　教職課程科目で実施

教育理念①　信頼される教員・社会人の育成のために

A) 基礎的知識・技術の確実な習得を促すため、教員による「基礎的知識・技術」の説明と解説後に、小テストで「知識理解」を反復しながら定着を促す。

B) 詳細な講義資料・レジュメの提供:

分かりやすい講義内容レジュメを提供し、(　　)埋め式のレジュメも作成して、学生が聴いているだけでなくレジュメ書き込みをしながら、講義への集中力を維持できるようにする。また、重要な専門用語を穴埋めにして学生に書かせることで、基礎的知識を確実に身に着けさせる。

教育理念①「自ら考えて行動する教員・社会人を育成する」ために

教育理念②「すべての児童・生徒に公正・平等に対応する教員育成」のために

C) 教育の思想と歴史、現代社会の教育に関する問題を取り上げた、テーマ(単元)の設定:

「自ら考えて行動する教員・社会人」を育成するために、授業内でなるべく対立する教育の概念、考え方とそれに関連する事例を提示して、学生がディスカッションしやすいテーマを授業内容に選定しておく。

D) 教員の講義内容を基に、自分一人で考えた後で、学生同士のディスカッションやグループワークを入れる。「提出課題」として、まずは自分自身で問題を考える。その後で、グループ・学生間のディスカッションを行い、結論を全員に書かせて提出させる。

E) 提出課題の内容は、教員が評価し評点を入れて、次の授業の最初に返却またはフィードバックする。

3.2　演習科目での方法:　「幼小教育連携演習」「幼小教育連携教育法」で実施

教育理念①　自ら考えて行動する教員・社会人を育成する

教育理念②　すべての児童生徒に公正・平等に対応できる教員の育成

A) 授業前に事前課題として読んできた「テキストの内容」について、
ゼミ内でレポートの当番を決めて、1人ずつレポートする。
学生にはレジュメを作成させ、授業前に人数分を印刷・配布させる。

B) レポートの内容に基づき、学生間のディスカッション、感想・質疑応答を行う学生。全員がレポーターの学生に対して必ず自分自身の感想や質問を述べる場面を作る。そのことによって、学生が自ら考え行動する姿勢を身につける。
テーマによっては、児童・生徒への平等・公正な指導とは何かを議論する。

C) 最後に教員が重要事項を確認する。

3.3　卒業論文の指導:「卒業研究」で実施

教育理念① 信頼され、自ら考え行動する教員・社会人の育成 のために

教育理念②公正・平等に利用者(児童生徒)に対応できる教員・社会人育成のために

大学生活を通して身につけた、教育に関連する基礎的知識・技術を応用して、自ら考えて研究方法を選択し、学校教育現場に対してフィールド調査を依頼、実践して、卒業論文を執筆する。

3.4 教育実習での指導

教育理念① 信頼され、自ら考え行動する教員・社会人の育成のために

教育理念② 公正・平等に児童生徒に対応できる教員・社会人の育成

教育実習先のすべての教職員との連携により報告・連絡・相談を行いながら、教員として求められる行動とは何かを自ら考えて行動する。教育活動においては、すべての児童生徒に健全な発達を促せるように、公正かつ平等に指導を行う。

4.　教育の成果・評価

4.1 学生授業評価アンケート

(1)佐賀大学での学生授業評価アンケート

佐賀大学では年に 2 回学生による授業評価アンケートを実施しているが、私は今年度 4 月に赴任したため本学での学生評価はまだ 2020 年度前期の分しか入手できていない。その為、佐賀大学学生の評価と同時に、前任校で実施した同科目についての「学生による授業評価アンケート」の結果も参照して、これまでの教育の成果を振り返る。

授業科目:現代の教育と社会(木 2) 教育方法論(火 1)　教育原理(金 4)　教育史(金 5)

実施日:　2020 年度前期

対象: 佐賀大学教育学部、芸術学部、理工学部、経済学部

1

		現代の教育と社会	教育方法論	教育原理	教育史
1	出席率はどのぐらいですか	4.981	5.000	4.912	4.911
2	授業時間以外の学習は、1 回の授業ごとにどの程度しましたか?	3.279	3.393	3.351	3.400
3	授業のためにシラバスを活用しましたか	2.703	3.333	2.906	2.976
4	授業の学習到達目標や成績評	3.769	3.786	3.754	3.778

	価基準を把握していますか				
5	教員の教育理念に基づいた教育方法や成績評価方法等の説明は有益でしたか	4.126	4.000	3.947	3.822
6	担当教員は、あなたの質問や相談に適切に対応してくれましたか	4.101	3.926	3.963	3.971
7	教員の授業に対する意欲や熱意が感じられましたか	4.577	4.214	4.200	4.067
8	授業の学習到達目標を達成できましたか	3.885	3.963	3.429	3.810
9	教材やICT環境は授業の理解に役立ちましたか	4.279	4.250	3.867	4.000
10	授業では、学生が主体的に学べるよう他者と一緒に「書く」「話す」「発表する」といった活動が行われていましたか	2.740	3.107	3.800	3.000
11	この授業は全体として満足できるものでしたか	4.356	4.214	3.800	3.844

(2) 前任校での上記の科目の「学生による授業評価」

調査時期: 2019 年度後期

		現代の教育と社会	教育原理	教育方法論
1	板書、スライド、教科書プリントなどの授業の内容はわかりやすく適切ですか	3.59/4.00	3.50	3.33
2	授業は、シラバスに沿って展開されているか	3.63/4.00	3.30	3.44
3	あなたはこの授業に興味があり、意欲的に取り組んでいるか	3.47/4.00	3.80	3.33
4	教員は学生の理解度に応じた事前・事後学修の課題を出すなど学生が自ら進んで学ぶことを促していますか	3.47/4.00	3.70	3.00
5	教員は、学生の主体性や対話を保障しより深い学びを促すような工夫や、興味の持てるような授業の工夫をしているか	3.31 / 4.00	3.60	3.00

私は佐賀大学に 2020 年 4 月に着任したため、現時点では前期の学生アンケート評価の結果しか入手していないが、上に挙げた評価結果を見ると、質問項目 2「授業時間以外の学習は、1 回の授業ごとにどの程度しましたか」、質問項目 3 「授業の為にシラバスを活用しましたか?」、 質問項目 4 「授業の学習到達目標や成績評価基準を把握していますか」、 質問項目 8「授業の学習到達目標は達成できましたか」、 質問項目 10「授業では、学生が主体的に学べるように他者と一緒に書く、話す、発表するといった活動が行われていましたか」の評点が 2.8～3.9(5.0 満点中)で、他の質問項目に比べて低いのが目立つ。特にこれらの科目(現代の教育と社会、教育方法論、教育原理、教育史)は、教職課程の「教職に関する科目」として、教員になるために必要最小限の知識として必ず理解し習得しておかなければならない科目である。 私の教育理念である「信頼され、公正・平等に対応できる教員」となるためにも、これらの知識・技術の習得は必須である。授業時間以外の事前事後学習では、テキストを読んでくること、提出課題の復習を義務付けていたが低評価に留まっている。また、「学生のシラバスの活用度」や、「授業の到達目標を達成できましたか」の評価点も 4.0(5.0 満点中)以上は得られていない。「信頼される教員」になるために必要な基礎的知識・技術が十分に習得できた実感が得られていない学生がいるのは問題である。

また、私の教育理念である「自ら考え、行動できる教員・社会人」を育成するためにも、項目 10「授業では、学生が主体的に学べるよう他者と一緒に「書く」「話す」「発表する」といった活動が行われていましたか」では高得点を得たいところであるが、残念ながら 2.7～3.7 に留まっている。

コロナ禍のため今年度前期は全てオンライン授業であったことと、私自身がオンラインでのグループワークの作業の技術を持たなかったため「発表する」「話す」活動を導入できなかったという理由はあるが、今後はオンラインであっても Webex 等を使って、学生間のグループワークやディスカッション等を導入したいと思っている。

前任校の 2019 年度後期の授業評価では、質問項目 2「この授業に興味があり、意欲的に取り組んでいるか」、質問項目 4「教員は学生の理解度に応じた事前事後学習の課題を出すなど、学生が自ら学ぶことを促しているか」、質問項目 5「教員は、学生の主体性や対話を保障し、より深い学びを促すような工夫をしているか」については、すべて 4 点満点中 3.00 以上の評価を得ていた。本学でオンライン授業を終了して何時対面授業に戻れるかは分からないが、オンライン授業であっても佐賀大学で前任校と同程度の評価が得られるように努力していきたい。

5. 今後の目標

5.1 短期目標 3 年度以内

・教育学部の幼小連携教育コース、小中連携コースの教員として

就職委員会の報告では、2020 年度の教育学部全体の 4 年次生の教員就職率は 80%であり、昨年度を上回るものであった。私も教育学部全体の教職課程科目の担当として、**来年度も 80%以上の教員就職率を維持できるように**、1 年次から 4 年次まで継続して「教員になる意欲」を高められるような授業・演習での指導を目指したい。

・佐賀大学の全学部(理工・農・経済・芸術・教育)対象の教職課程科目の担当者として

私の教育理念である「自ら考えて行動できる、信頼され公正・平等に対応できる教員・社会人を育成する」ために、以下の様な指導を実施したい。

・第 1 に、「信頼される教員」になるために必要な「基礎的な知識・技術」を私の担当科目の中で確実に身に着けさせたい。そのために、事前学習としてのテキストの予習を始め、毎回の授業の後半で**小テスト・小レポートを課し、全 15 回の総合点を 80%以上取得できるように取り組ませる**。事後学習では復習を義務づけ、次回のミニテストで習熟を促す。

・第 2 に、授業中に「議論となる問題テーマ」を設定して、まずは自分自身 1 人で問題を考え、その後グループでディスカッションをして意見をまとめる作業を課す。作業のプロセスを提出課題用紙に各自まとめて、提出する。**評点は 5 点満点で実施し、評価に反映させる**。

・教育学部の幼小連携コースのゼミ担当者として

今年度初めて本学で 4 人の卒業論文の指導を担当したが、全員が一定水準以上の研究論文を作成することができた。今後も継続して**担当するゼミ学生全員が、良質な学士レベル論文を完成できるように指導する。**

また、**ゼミ学生の教員採用試験合格の為の支援はもとより、教員以外の就職希望の学生に対しても就職委員会と連携して適切な指導助言を行う。**

5.2 長期目標

・佐賀大学教育学部と附属小学校・中学校だけでなく、連携協力校である佐賀市立本庄小学校との連携を強化し、教育現場での学生の教育研究活動、ボランティア活動を活発化したい。既に附属学校ではそうした活動が為されてはいるものの、公立学校の教育現場では進んでいない。学生たちは、学校現場に求められた支援活動をする中で大学で身に着けた知識・技術を役立て、私の教育理念である「自ら考えて行動する」機会を得るだろう。学生たちが、すべての親と児童生徒に「信頼され、平等・公正に対応できる教員」になるためにはどうしたら良いかを思案する場を附属学校以外に設定したい。

6. 添付資料・参考資料

(1) オンラインシラバス
(2) 定期試験問題
(3) 提出課題: 小テスト 小レポート